

経済指標ウォッチャー

2021年1～3月期中国実質GDP成長率 過去最高の伸び

前期比で見た伸び率は落ち着いており、景気に過熱感は見られない

GDP（国内総生産）とは？

Gross Domestic Productの略で、国内において一定期間内に新たに生産されたモノやサービスなどの合計金額。その国の経済力の目安に用いられる。

前年同期や前期と比べ、どのくらい増加（減少）したのかを見ることで、国内の経済成長を推定することが可能となる。GDPの増減率を%で表したものを『GDP成長率』と呼ぶ。

実質GDP成長率は前年同期比18.3%増

中国国家统计局が16日に発表した、2021年1～3月期の実質GDP（国内総生産）成長率(速報値)は、前年同期比18.3%増となりました(図表1)。事前予想(同18.5%増)はわずかに下回ったものの、2020年1～3月期のGDP成長率が新型コロナウイルス感染の影響から大きく落ち込んだ反動もあり、統計データを遡ることができる1992年以降で最大の伸び率となりました。

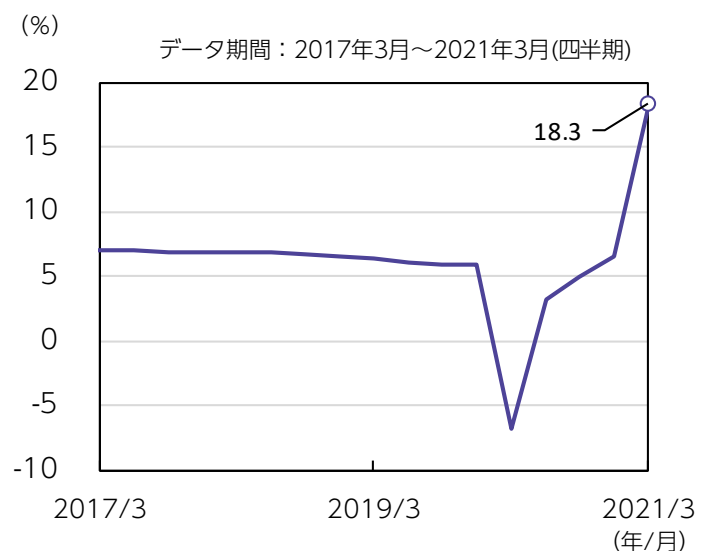
2021年1～3月期以降の実質GDP成長率は、前年同期に大きく落ち込んだ個人消費の回復や、輸出の伸びがけん引しました。輸出は、米国をはじめとした世界経済が回復基調にあること、ウイルス関連の医療機器の販売が引き続き好調であったことから堅調でした。

今後も着実な成長が期待される

足元の中国経済の成長スピードをより反映すると言われ、日米欧が重視する指標である実質GDP成長率の対前期比の伸び率は0.6%増と2020年10～12月期の3.2%増から伸びが鈍化しました(図表2)。年初に新型コロナウイルス感染が拡大したこともあり、春節(旧正月)休暇中に移動制限が行われていたこと等から、伸び悩んだものと思われます。

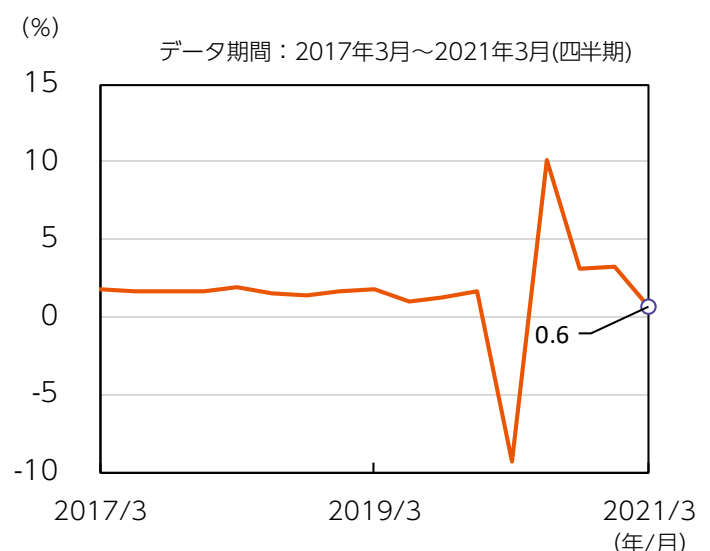
一方で、前年同期比でみたGDP成長率の数字からは中国経済の景気過熱感もあるとの見方もあります。しかし、前期比で見るとコロナ前の水準まで景気回復している一方で伸びが鈍化していることから、回復は一旦踊り場に差し掛かっているとみられます。緩和的な金融政策が転換される可能性は低いとみられ、中国経済は着実に成長を続けるものと思われます。

図表1：前年同期比の実質GDP成長率の推移



※ 前年同期比の実質GDP成長率の推移

図表2：前期比の実質GDP成長率の推移



※ 前期比の実質GDP成長率の推移

出所) 図表1、図表2はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

コールセンター 0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ <https://www.nam.co.jp/>